



さまざまな体験からの学び

6月19日（金）に都道府県をまたぐ移動の自粛が緩和されました。テレビでは各地の観光地の様子が映し出され、経済活動の再開に向けて社会が動き始めています。膨らみ始めたばかりの赤ちゃんのような柿の実や、棒状に伸びたトウモロコシのようなモクレンの実を手にして「これは何の実ですか。」と尋ねてくる子どもたちにも、少しずつですが日常の生活が戻ってきているように感じます。



朝のスピーチでは、「友だちや先生に久しぶりに会えてうれしかったこと」「家族に食事を作って喜んでもらったこと」「兄弟の世話をするようになったこと」などの話題が増え、エッセンシャル・ワーカーと呼ばれる、患者の治療にあたる医師や看護師、スーパーのレジを打つ人、公共交通機関で働く人など、私たちの社会を支える必要不可欠な仕事を担う人たちへの感謝の気持ちを伝える報道に共感する気持ちを伝える子どもたちがいます。「自分にできること」「感謝の気持ちをつたえること」の大切さを実感する子どもたちの姿です。

最高学年である6年生は「中舞っ子班遊び」の成功に向けて全力で取り組んでいます。「密接・密集・密閉」の重なりを避けることのできる遊びを検討して、異なる年齢で構成されたそれぞれの班が仲よくなれるよう目当てをもって活動しています。きっと大成功を収めるに違いありません。また、各学年では、1学期のまとめに向けて、学んできた内容を確認し、お互いの成長を認め、自分の課題を明らかにして夏休みを迎えられるよう学習を進めています。

今年度から新しくなった通知表を後日お渡しします。全教科3観点による学習状況（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）をお伝えします。評価（○、△、◎）や評定（1：もうすこし、2：目標に達している、3：よくできている）の数だけを気にするのではなく、課題を自ら見つけ、学びを振り返ったり、次の学習に向けて新たな「めあて」を設定したりする力の高まりに目を向けていただきたいと思います。「どんなことをどんなふうに取り組んだか。」「できるようになりたいことに向かってどんなふうに取り組んでいこうと思うか。」など機会をとらえてお話しただけるとありがたいです。

子どもたちは様々な体験を通して多くのことを学び、力を付けてきています。朝顔、ミニトマト、ナス、へちまなど、それぞれ学年に応じた栽培活動に励んでいます。毎朝登校するとペットボトルやじょうろで水やりをしたり、畑の草取りをしたりする姿が見られます。「芽が出たよ。」「花が咲いたよ。」と喜びを感じ、命を育む大切さをこれらの活動から学んでいます。「習ったことを身に付けるためには、聞くだけでは10%、見るだけでは15%しか記憶に残らないが、体験したことは80%記憶に残る。」と主張する研究者がいます。失敗したことも、つらかったことも、苦手だと感じたことも、子どもたちが成長する上で重要な体験の一つです。



今後も引き続き、ご家庭や地域の皆様のお力を借り、教育活動に全力であたります。ご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長 藤原 佳弘
教職員 一同